

今日の社会は、物質的に豊かになり、便利で快適な生活を享受できるようになった反面、物質万能、経済優先の社会的風潮を生み出し、人と人との間のぬくもりやうるおいが薄れ、心の貧困化が指摘されています。また、核家族化、少子化などが進行するにつれて、家庭が本来もっていた教育的機能が低下するとともに、地域の連帯感の弱まりなどにより、人間関係が希薄化しております。

このような状況の中、高齢化をはじめ情報化や国際化などに対応した人間性あふれる“ぬくもりのある社会”を創造するために、心豊かでたくましい人間の育成が強く求められています。

そのためには、学校教育においてノーマライゼーションの理念に基づき、子どもたち一人ひとりがお互いを尊重し、認めあい、他人への思いやりの心をもつように指導していくことが大切であり、大阪府においても、すべての児童・生徒が「ともに学び、ともに育つ」ことを基本に、互いに信頼しあい支えあう集団づくりをめざして教育を進めてまいりました。

自分のことだけでなく周りの人も大切に思い、一人ひとりそれぞれの考え方、生き方を尊重し、ともに生きる喜びを求めることができる「福祉のこころ」をもった心豊かな人間を育成することは学校教育の大きな課題であります。

この課題に対応するため、小学校段階から、障がい者や高齢者などを取り巻く課題と、障がいや高齢などについての理解を深め、その人々の様々な生活や生き方に気づき、福祉の意味や福祉活動の役割について理解できる福祉教育指導資料集を平成10年に作成し、各学校において、「福祉のこころ」をもつような指導を進めてまいりました。

その後、「特別支援教育」が学校教育法に位置づけられ、新学習指導要領の総則において、「障害のある幼児児童生徒との交流及び共同学習や高齢者などとの交流の機会を設けること」と、「交流及び共同学習」が新たに規定されるなど、福祉教育や障がいについての理解を深める教育を推進するための諸状況が大きく進展しました。

そこで、今回の改訂では、障がいなどに関する児童・生徒の理解が表面的にとどまるのではなく、障がい者や高齢者などとの出会いや体験活動などを通して、学んだことが自分の身近にいる障がいのある仲間や高齢者などへの理解、思いやりや行動につながるような指導事例を盛り込みました。さらに、今日的な課題に取り組んだ指導事例、福祉教育の実践に向けたポイントや社会福祉協議会との連携のあり方なども加えて、学校現場で教員が、より活用しやすいように工夫しています。

この資料集が活用され、各学校でさらに素晴らしい実践が展開されることにより、児童・生徒が、すべての人を“かけがえのない人”として尊重し、みんなが幸せに暮らせる社会の実現のために「思いやりを行動へ」と移す実践力が育成されることを期待しております。

《目 次》

はじめに

第1章 福祉教育とは何か — 心豊かな、ぬくもりのある社会を創り出すひとりとして —

1. 福祉教育のねらい

- (1) 「福祉」とは何か 1
- (2) 「ともに学び、ともに生きる」理念に基づいた教育活動 1
- (3) すべての人々の生き方にかかわる教育活動 2

2. 福祉教育の指導内容

- (1) すべての教育活動を通して進める 2
- (2) 3つの側面からアプローチ 3

3. 福祉体験からボランティア活動へ — 思いやりを行動へ —

- (1) 子どもの発達段階に応じた体験的な学習を取り入れる 4
- (2) 「福祉のこころ」に根ざしたボランティア活動 5

第2章 福祉教育の進め方

1. 福祉教育のカリキュラム作成のポイント 6

2. 福祉教育の指導方法

- (1) これまでの福祉教育の課題 7
- (2) 指導のポイント 7
- (3) プログラムの提案 8

3. 福祉教育を進めるためのポイントQ&A 10

4. 参考資料

- (1) 視覚障がいとコミュニケーション手段に関すること 13
- (2) 聴覚障がいとコミュニケーション手段に関すること 14
- (3) 障がい教育に役立つ参考資料 15
- (4) 指導資料 ①『福祉のこころ』を育てる学級づくりに役立つ福祉教育ワーク 16
- ② いっしょに考える『しょうがい』のこと（小学3、4年生向け教材） 23

5. 社会福祉協議会との連携

- (1) 社会福祉協議会の役割 26
- (2) 社会福祉協議会の活動内容 26
- (3) 社会福祉協議会との連携で福祉教育の充実を 27
- (4) 社会福祉協議会との連携の進め方（例） 28
- (5) 大阪府内社会福祉協議会一覧 29

第3章 学校における取組み事例

1. 小学校の事例

- * ゆびもじはみみのきこえないひとにとってたいせつなんだね〔聴覚障がい理解〕 30
- * いっしょにいとあんしん〔高齢者との交流〕 34
- * みんなちがっていいんやなあ〔支援学級との交流及び共同学習〕 38
- * 自分たちにできることは何だろう、伝えようAさんのこと〔支援学級との交流及び共同学習〕 43
- * とともに生きていく、やさしい町に〔視覚障がい者との出会いから行動へ〕 46
- * であい・つながり・ともに生きたい〔障がい理解と交流〕 51
- * 車いすから見た新しい世界〔障がい（肢体）理解とバリアフリー〕 57
- * 心（こころ）通（かよ）わせて〔支援学校との交流〕 61
- * みんなであくしゅ〔学校全体をあげての構造化の取組み〕 65

2. 中学校の事例

- * 「違い」を認める〔障がい理解〕 70
- * 地域に育まれ、発展する学校づくり〔地域、社会福祉協議会と連携したボランティア活動（高齢者との交流）〕 75